



鈴木基夫
自由クラブ

「療育」について

問 放課後等デイサービス充実の取組は。

答 就学後の療育や支援を行う上で、質の向上や放課後等デイサービス事業所の適正配置など、地域における支援体制の充実が求められている。第6期障害福祉計画・第2期障害児等福祉計画において、サービスの見込量や提供確保の成果目標を定めており、この実現を目指していく。

問 市内における特別支援学校設置の現状について伺う。

答 特別支援学級に在籍する児童生徒の適正な教育環境の確保と、豊川特別支援学校に通う知的障害等の児童生徒の長時間通学の解消は大きな課題と認識している。県に対し特別

支援学校設置の要望をしていきたい。

問 インクルーシブ教育に対する市の考えは。

答 障害の有無にかかわらず、ともに教育を受けることで「共生社会」の実現を目指している。子供たちの多様性を尊重し、障害のある子供が精神的にも身体的にも最大限まで発達でき、他の子供と変わらず社会に参加できるように支援していく教育方針である。小中学校における通常の学級、通級による指導、特別支援学級、特別支援学校といった連続性のある「多様な学びの場」を用意することが必要と考えている。



柴田安彦
無会派

し尿・浄化槽汚泥の処理について

問 し尿処理量の減少等により収集料金高騰や収集運搬業者撤退のリスクがあるのでは。

答 くみ取業務の安定確保に支障が生じ、費用負担の不公平感や著しい負担増が懸念される場合や、撤退する業者が現れ、残った業者での市内を区域に分けた区域割の再編が難しい場合、許可業による処理体制自体を見直す必要があると考える。

問 収集・運搬を許可制から委託とし、住民負担を上げずに業者の経営を守るべきでは。

答 委託のメリットとして、処理手数料を条例で定めることが可能になれば、くみ取料金を市が決定でき、必要に応じ住民負担軽減にも対応できる。デメリ

ットは市の財政・事務負担増が考えられるが、メリットやデメリットを勘案し今後の在り方を研究検討していく。

問 清幸園の使用料1車300円は根拠がなく、廃止してはどうか。

答 市がその責任を果たし、収集運搬業務を継続して維持するためには、衛生組合で使用料廃止が検討されるのではなく、市が委託化等、し尿等の減少に影響を受けない収集運搬方法を検討していかなければならぬ。また、清幸園でのし尿等処理事業になるので、衛生組合を共に運営する幸田町とも考え方を合わせなければならぬ。



清幸園



牧野泰広
自由クラブ

サーキュラーエコノミーについて

問 今定例会の冒頭に、市長は「サーキュラーシティ」を表明した。

具体的な取組に対する今後の思いや、本市が向かう方向性等、市長の考えを伺う。

答 サーキュラーエコノミーの具体的な取組を推進していくには、他分野・他業界との連携が必須となる。今ある課題を先送りせず、地域の人たちや企業、行政がワンチームとなって取り組めるような仕組みづくりを行い、サーキュラーエコノミーの先進地として注目されるよう情報発信しながら、進めていきたい。

また、本市に関わる全ての人々が、このまちを誇りに思う「君が愛する蒲郡」となるよ

う強く推進し、次世代につなぐ道しるべとしてサーキュラーシティを作り上げたい。

公共交通空白地域について

問 総代から要望がなかったというだけで、現在、公共交通空白地域として残っている地区をどうするのか。今となつては、行政主導で進めるしかないと考えられるが市の考えは。

答 今後は、これまでの方法にこだわらず、市全体の交通ネットワークについて考え、行政が主導しながら、地域住民と一緒に地域に適した公共交通の導入方法を検討する。



コミュニティバス